



実務研修
鹿児島県三島村教育委員会

三島村とは

鹿児島県本土のちょっと南の海の上に並ぶ三つの小さな島。

宇宙センターで有名な種子島や世界遺産の屋久島の横に、控えめに浮かぶその三つの島は「竹島」「硫黄島」「黒島」。この三つの島から成る村が三島村です。

人口は約350名。交通手段は週4便の定期船のみ。村役場や教育委員会は、島内ではなく鹿児島市にあるという特殊な行政システム。

主な産業もないため、財政状況は極めて厳しく人口は減少していくばかり、このままではこの島々は忘れられた島になり、いずれは無人島になっていくのでは…



三島村とは

ところが！

この村には4つの義務教育学校と約60名の子どもたち、50名ほどの先生たちがいます。
つまり、この村の約3分の1は教師と児童生徒です。
年少人口比率は約24%で**日本一**。（2020年度）

この村では、学校や子どもたちが希望であり、宝です。
なぜ厳しい状況の中で学校が存続できているのか、
なぜこんなに子どもの数が多いのか、
それは「**しおかぜ留学**」のおかげです。

実務研修スケジュール

1/20	三島村教育委員会	1/27	三島村教育委員会
1/21	鹿児島市内→硫黄島	1/28	三島村教育委員会
1/22	硫黄島→黒島	1/29	三島村教育委員会
1/23	黒島→鹿児島市内	1/30	三島村教育委員会
1/24	地区教育論文審査会	1/31	南さつま市教育委員会&学校視察

定期船「フェリーみしま」





三島村のある？ない？ Part1

小中学校：ある

3島4集落に1校ずつ、義務教育学校があります。義務教育学校とは、小学校から中学校までの9年間の義務教育を一貫して行う学校です。中学生1・2・3年生は、7・8・9年生と呼びます。

コンビニ：ない



コンビニ、スーパー、レストランいずれもありません。昔ながらの小さな商店がありますが、現在は毎日の買い物はネット注文が多く、注文品はフェリーで届くので、港に取りに行きます。

ガソリンスタンド：ある



硫黄島には平成31年に村内初めてのガソリンスタンドが完成しました。竹島、黒島では自分でガソリンを仕入れないといけません。

信号機：ない



あるとすれば、道路工事で車線が減ったときにできる臨時の信号でしょうか。ちなみに三島村内には「国道」がありません。竹島には、教育の為に学校の周りには横断歩道が書いてあります。

温泉：ある



硫黄島には活火山があるので、温泉があちこちから湧いています。ただ、その多くは海の中に湧いているので、入浴ができません。現在入浴のできる源泉かけ流しの温泉は、東温泉のみです。

交番：ない



ただし、硫黄島には駐在所があり、警察官が常駐しています。竹島、黒島には警察官はおらず、時々硫黄島や鹿児島本土から巡回に来ます。

三島村のある？ない？ Part2

ごみ焼却炉：ある

各集落に焼却炉があります。分別し、燃えるごみは燃やして、燃えないごみ・リサイクルするごみは、フェリーで本土まで運んでいます。

病院：ない



各島に診療所があり、看護師さんが常駐しています。お医者さんはいないので、定期的に鹿児島本土から診療や検診にやってきました。通院はほとんど鹿児島本土へ行っています。緊急時はヘリで搬送します。

発電所：ある

竹島・硫黄島・黒島それぞれに発電所が1か所あり、重油による火力発電によって電気を作っています。管理は九州電力が行い、運営は三島村発電機が行っています。

村役場：ない

三島村役場本庁は鹿児島市内にあり、ほとんどの職員は三島村に住んでいません。全国で十島村と竹富町と合わせて3町村だけの特徴です。ただし、各島には出張所があり1名だけ職員がいて、フェリーの乗船手続きや行政手続きを行っています。

インターネット：ある

三島村各島には、枕崎から海底ケーブルが通っています。そのため、各戸・学校などには快適なインターネット環境があります。携帯電話の基地局（NTT/AU）も3島4集落すべてにあります。

銀行ATM：ない

島内にATMはありません。金融機関は郵便局（竹島、黒島は簡易郵便局）があるのみです。現金は郵便局の窓口でおろすことができます。









三島硫黄島学園（義務教育学校）

児童生徒数：25人（前期課程12人、後期課程13人）
1学年につき1～5人ほど

教員数：15人（養護教諭、栄養教諭含む）



しおかぜ留学とは

小中学生向けの「離島留学制度」

子どもたちが都市部（ふつうの町とか市とか）から三島村に来て、自然いっぱいの環境の中で学校生活を送る

- ・ 小人数だからこそその温かく思いやりのある見守り
- ・ 日常的な自然体験（海遊び、釣り、山登り、畑仕事）
- ・ 地域の人との距離の近さ
- ・ 親元を離れた「寮生活」

三島硫黄島学園では約10人がしおかぜ留学生



親元を離れ、地元の学校に通っている「しおかぜ留学生」は、「しおかぜハウス」という寮のような施設で生活しています。

そこには「しおかぜハウス」を管理して、家族のように世話をする里親さんがいます。

「極小規模校のよさ」を生かした学び



- 一人一人への手厚い指導
- 充実した異学年交流
- 充実したICT活用
3つの島を繋いだ授業

「極小規模校のよさ」を生かした学び



- ・自己表現する機会が多い
- ・チャレンジしやすい空気
- ・地域の自然や伝統を活かした学び



